

傍聴の報告

委員長 傍聴についてご報告いたします。

本日の教育委員会会議に、2名の方から傍聴したい旨の申し出があります。

松戸市教育委員会傍聴人規則に基づき、これをお認めいたしますので、ご了承願います。

それでは、傍聴人を入場させてください。

(傍聴人入室)

開 会

委員長 ただいまから平成19年12月定例教育委員会会議を開催いたします。

会議録署名委員の指名

委員長 開会に当たり、本日の会議録署名人を八田委員にお願いいたします。

議案の提出

委員長 日程に従い議事を進めます。

本日の議題は報告等1件となっております。

議案はございません。

平成20年松戸市成人式の実施について

委員長 それでは、報告等の平成20年松戸市成人式の実施についてをお願いいたします。

社会教育課長 社会教育課長でございます。

平成20年松戸市成人式につきましてご報告をさせていただきたいと思っております。

お配りしました横の資料、「平成20年松戸市成人式」をごらんいただきたいと思います。

まず、2ページの方でございますが、平成20年松戸市成人式につきましては、森のホール

21におきまして、平成20年1月14日、成人の日になりますが、午前10時から午後1時半まで開催をいたしたいと思っております。

なお、式典につきましては、12時の終了を予定しておりまして、あと終了が1時半になっておりますが、これにつきましては、レセプションホールの方で交流会等がございますので、そちらは1時半まで延ばしたいという考え方でございます。

対象者につきましては、下段書いてございます、記載のとおりでございますが、11月15日現在で4,507名、女性が2,167名、男性が2,340名でございます。

次に、松戸市の成人式に対するコンセプトでございますが、3ページに記載してございます。

新成人が成人としての自覚と責任を持つことを認識していただくということを目的としております。

手段としましては、平成10年より行っております成人式の行事を新成人みずからが企画、運営しているというふうな形の中で実施する予定でございます。

次に、4ページをお開きください。

コンセプトの実現に向けてというふうな記載をしてございます。新成人のスタッフの募集、スタッフ会議の開催、本市のかかわりを記載してございます。

また、次の5ページは、それを図表化したものでございます。

また、新成人のスタッフ募集につきましては、メンバーを公募のほか、市内の中学校、また大学、企業の推薦によりまして募集した新成人で構成しております。

本年は、推薦による14名が会議に出席して議論を重ねているところでございます。

また、本年から社会教育委員初め市議会議員、また過去にこういったボランティアスタッフとして会議に参加した成人OBの方も、実はアドバイザーとして会議に出席いただいているところでございます。

次に、6ページをお開きください。

6ページには、これまでの会議で決定しましたことや、また本年の特色を記載してございます。

会議につきましては、第1回を8月26日に開催いたしまして、これまで5回開催をいたしました。また、今月の7日、8日には、森のホール21におきまして、台本の読み合わせ等のリハーサルを行い、まだ立ち稽古程度でございますが、順調に仕上がっているなというふう感じてございます。

また、この会議の中で平成20年の成人式のコンセプトを「二十歳への階段」としまして、成長過程ごとに、「芽（め）」、「蕾（つぼみ）」、「華（はな）」とテーマを設定して、3部構成で実施することに決定をいたしました。

本年の特徴といたしましては、今までは司会などの運営スタッフだけを新成人が行っていましたが、今回、第1部のお笑いライブ、第2部のクラシック演奏、第3部のクイズの各行事に、スタッフのお友達だとか、知人である松戸市出身の新成人が出演しているというふうな形でございます。

なお、出演する成人は、衣装やメイクだとか、すごく大変だが、同級生の前で発表できるという形の中で、大変うれしいというふうに受けとめていただいております。

その他、過去数回にわたりまして実施しました景品配布、例えば昨年の例で言いますと、インスタントカメラだとか、あとポラロイドフィルムの2枚分だとか、ネイルトランプデラックスというのはつめ切りだとかいろいろなセットなんですけど、五、六品の景品、大体単価的に500円程度でございますが、景品配布をしておりまして、本年からは記念品としまして本を来てくださった方に全員お渡しすると。理由としましては、毎年、景品が若干余ったりだとか、景品の内容がよくないとかいうふうな意見がございましたので、これにつきまして教育委員会の方で十分吟味し、また実は本を8冊用意いたしまして、それでスタッフに見ていただきましたところ、一番上の水色の小さな本でございますが、そちらをスタッフの人たちが、これがいいだろうという形で、大人の常識というふうな簡単な本でございますが、そういったものを全員にお配りをしたいというふう考えております。

また、写真撮影、ポラロイドなんですけど、これは主に昨年までは選挙管理委員会が中心になって行っておりましたが、それは大変実は好評だったもので、その写真撮影につきまして、引き続き継続をしたいなというふう考えております。

実は先週、社会教育委員会議がございました。2名の方が、実はこの会議に出ていただいておりますわけなんですけど、特に1名の方、実は毎回出席をいただいております。その中で感想を述べてくださいということでちょっと話が出ましたのでご報告申し上げます。

その方からいわく、1回目の会議では、二十歳とはいえ、まだ十分幼さが残っていると。この人たちでできるのかなというふうな実は不安があったそうでございます。

ただ、会を重ねるごとに、課題に向き合う態度や、また発言が非常に成長しているなど。特に会議が終わって、夜やるわけですけども、終わってから何人かで駐車場の片隅で、こうしたらいい、ああしたらいいという意見も大分活発に出てきたと。やはり二十歳という

ことを大変見直しましたというふうな意見が出てございました。感想でございます。

また、本市では、実は成人式業務を委託しておりますが、大ホールで行う事業の出演料や講演料を予算計上しておりませんでした。そういったことで、毎年出演者が実は本当にボランティアで同じようになっていたというふうな実態もございます。そういった委託業務の内容だとか、業者選定の方法、またスタッフ会議への行政のかかわり方だとか、他の委員さんからご意見をいただき、次年度以降、また改めて成人式ではスタッフ募集、また会議の開催時期、会議への行政のかかわり、業者選定などをまた十分検討するというふうな形でお答えをしたところでございます。

ほかに変わった点につきましては、ホール内外の整理員を減少することなく、市の職員から実は委託職員に変更いたしました。そういったことで、職員の人件費の経費の削減に努めているところでございます。

ちなみに、市職員の従事者は、昨年度は56名、本年度は42名を予定してございます。

次に、7ページをごらんください。

対象者及び出席者数の出席率等を表に記載させていただいております。

対象者はこの10年で2,113名減少しております。出席者数は横ばいで推移しております関係で、出席率は順調に推移といたしますが、昨年やっと60%を超えたわけでございますが、順調に推移していると。結果としまして、私どもは、同級生がやはりスタッフに参加しているというような効果も相当あるのではないかなというふうに考えております。

最後になりましたけれども、平成19年成人式終了後、実はボランティアスタッフだとか、また一般の方のお手紙、メールについてご意見をいただいている喫煙場所、またマナーの問題でございます。これにつきましては、森のホール場外に、ちょっと離れたところでございますが、喫煙場所を設置することによりまして、JTに協力をもちかけましたところ、喫煙マナー、そういったものの啓発もご協力いただくというふうな形で、喫煙マナーにつきましても十分指導してまいりたいなというふうに思います。

あとまた、お手紙によく出ます式終了後、特に場外に大分ごみが散らかっているというふうな実はご指摘もいただいておりますので、式典の最中であって、また終わりましたところ、場内外の整理員による清掃作業を少し強化していきたいなというふうに考えております。

以上、ご報告とさせていただきます。

委員長 ありがとうございます。

年を重ねるにしたがって、成人式のやり方も充実してきたような気がします。

特に今回のコンセプトは、「二十歳への階段」、「芽(め)」と「蕾(つぼみ)」と「華(はな)」にわけて20才までは、成長過程を表現しようという試みです。なかなかおもしろいですね。

しかも、外部の人にも協力をお願いするということですが、多くの成人の皆さんご出席いただけるものと期待しています。

根守委員、何か。

根守委員 記念品として本ということなんですが、これは新成人、特にスタッフの方々に相談してお決めになったのでしょうか。

社会教育課長 当然私どものコンセプトであります「成人としての自覚と責任」ということをどういう形であらわそうかという話をしましたところ、そういった本があるんじゃないかなと。

今、委員さんたちに3冊見せましたけれども、実はあとほかに4冊ぐらいございまして、やはりもう一度、再度、大人への自覚を促すということで本はどうですかといったものは、提案したのは、はっきり言いまして行政でございます。

ただ、新成人の方たちは、皆さん非常にいいということで、正直言って、ポケットカメラをもらったり、カレンダーをもらったり、何をもらったりというよりも、やはりそれを手にすることによって、一度目を通すというのは非常にいいことであるということで、新成人の皆さんからご賛同をいただきました。

ちなみに、そちらの本の上に「祝成人」ということでのしをつけてお渡しをするというふうに予定してございます。

根守委員 本を送るということは、非常にいいことだと思います。ずっと残りますから。でも、ほんの簡単に見たんですが、漫画化されて、今の新成人に合った本なのかななんて思って見たり、もっと活字、私が見た範囲内では、冠婚葬祭とか、その中にも本当に基本的な、常識的なものが書かれているんじゃないかなと思います。

委員長 成人の品格とか、そんな本があるんでしょうか。

社会教育課長 選択肢の中にはございました。難しいねと。

委員長 もうちょっと難しく言えば、日本国憲法でも、六法全書でも、僕はいいのかなという気もします。

根守委員 本にかわっただけでも、大きいプラスだと思います。

委員長 ということで、この報告関係につきましてはよろしゅうございますか。

教育長どうぞ。

教育長 恐縮ですけれども、成人式の目的が書いてあるところ、「自ら生き抜こうとする成年を励ます」だけじゃなくて、「祝い励ます」となっているはずなんですけれども、意図的に削ったんですか、それとも偶然。

社会教育課長 別に意図はございません。

教育長 そうですか。意図がないと。これは法律からピックアップしたんでしょう、多分、法律の条文の一部を。そうすると、「祝い励ます」となっているんじゃないかなと思うんですが。つまらないことを言いました。ただ励ますだけで祝ってくれないと。

委員長 今、教育長おっしゃった点、そこはよろしいですか。

社会教育課長 もちろんこれにつきましては十分私どもも認識してございますので、ちょっと抜きましたけれども、成年を励ます、また祝いというのも、当然私どもは認識した中で行事を進めてまいりたいというふうに考えます。

委員長 それでは、よろしゅうございますか。

その他

委員長 次に、その他に移りますが、何かございますか。

どうぞ。

指導課長 指導課です。よろしく申し上げます。

全国学力・学習状況調査結果の概要についてご報告申し上げたいと思います。

まず初めに、今までの経緯について簡単に説明いたします。

本年4月24日に実施されましたこの調査ですけれども、10月24日に全国一斉に各学校等に結果が提供されました。本市としては、大学の教授、保護者の方、それから現場の先生方の代表で構成しました学力向上プロジェクトチームを中心に、松戸市の子供たちがどの部分がすぐれていて、どの部分が苦手なのか。学習意欲や生活の側面の実情や学力の定着状況について、学力と生活との相関関係等を多面的に把握し分析しているところでございます。本日は、その結果をご報告させていただきたいと思います。

また、12月中には、市のホームページ等を使いまして公表する予定でございます。

ただし、序列化につながらないように配慮いたしまして、個々の学校名を明らかにするような公表、それから数値等の公表はしないという方向でいきたいと思っております。

それでは、調査結果の概要について報告申し上げます。

まず、この調査につきましては、教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において、みずからの教育及び教育施策の成果と課題を把握しまして、その改善を図り、あわせて児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としております。あくまでも学力テストではなくて、学力状況調査であるということでございます。

本調査は43年ぶりに実施されたものであり、全国で215万人が参加しました。本市におきましても、小学6年生4,042人、中学3年生3,429人、計7,471人がこの調査に参加いたしました。

本市の教科に関する調査結果でございますけれども、小学校、中学校とも平均正答数・平均正答率・中央値・標準偏差は、全国・千葉県とおおむね同程度の結果でございます。

語句の説明については、中段に説明させていただいておりますけれども、正答数とは、正答数の平均、それから正答率とは、正答数の平均を百分率であらわしたものの、中央値とは、集団のデータの真ん中にくる位置、標準偏差とは、集団のデータの平均値からの離れぐあい、散らばりの度合いを示すものであります。

また、全国・千葉県の平均正答率が掲載されておりますけれども、本市はそれと同程度ということでご理解いただきたいと思っております。

学校別の結果でございますけれども、小学校におきましては、国語のA、知識を問う問題、それから算数のA、知識を問う問題については、おおむね良好であると考えられます。

また、国語のB、活用を中心とする問題、算数のB、活用に関する問題については、やや課題があると思っております。

中学校におきましては、国語のA（知識）はおおむね良好であり、数学のA（知識）、それから国語のB（活用）については、さらに身につけさせる必要があると考えております。数学Bの活用については、課題があることが結果からわかりました。

次に、生活習慣や学習環境等に関する調査につきましては、本市の児童生徒については、自然体験がやや不足しているかなど。あいさつはよくするけれども、学校の決まりを守っていない、規範意識等に違いが見られますけれども、全国・県と同じような傾向が見られました。

今回の調査から明らかになったことですが、すぐれている点、課題となる点ですが、まず教科に関しましては、小学校、中学校ともに四則計算がよくできていた。しかし、その知識技能を活用する力に課題がある。それから、算数・数学は、全国と比べ小・中

学校間において記述式の問題等で無答状況、回答しない、要するに空白になっている部分に相違が見られました。

2点目としましては、2枚目になると思いますけれども、生活習慣等に関する調査に関して、小学校では、かなりの子供たちが「最後までやり遂げてうれしかったことがある」と感じていることがわかりました。

また、中学校では、全国に比べ、授業時間以外にふだん、毎日、運動・スポーツをしていることが多いということがわかりました。

小・中学校の共通事項としましては、本市の児童生徒は、早起きである、6時前後に起きる子供が多いということでした。

前回、プロジェクト会議のときに、保護者の方の意見ですけれども、やはり東京に通勤をしている、家族全体が早起きをしているんじゃないかというような話が出ました。また、非常に部活動の盛んな市でありますので、朝7時ぐらいから部活動の朝練をやっているところもあると思います。そういう関係上、早起きが多いのかなと思います。

読書の時間とか、国語算数が好きかとか、大切かとか、よくわかるか、将来に役立つと思うかとの学習意欲に関する意識調査では、全国と同じ傾向が見られました。

教科に関する調査と生活習慣に関する調査の関連としましては、やはり目的とか目標を持っている子供たち、それから前日に学用品を確認するとか、宿題を進んでやるとか、国語・算数（数学）が好きだとか、勉強は大切だと思うとか、将来に役立つと考えている子供たちの正答率が高いことが、教科と生活関係とのクロスで明らかになっております。これは全国的にも、こんなような結果が出ていたと思います。

これらの結果から、1つは、知識に関する問題に関しては、全国・千葉県とおおむね同程度の結果が得られたので、引き続き基礎基本の確実な定着を図る指導が重要であると認識しております。

2つ目は、活用、応用に関するものにつきましては、課題があるのかなと思います。無答の状況とか、問題を読み取る力などを考えますと、小・中学校の連携、9年間を通して、学習意欲とか、言語技術をきちっと身につけていくことが必要ではないのかなと思います。

3つ目が、本市は各学校長の裁量によりまして、スタッフ派遣事業等、いろいろ活用しまして、少人数指導とか、習熟度別の指導とか、個に応じたきめ細かい指導が継続的に実施されておりますので、読み、書き、計算、その3アールズの定着を図ることができたなと思っております。

4番目ですけれども、相当数の子供たち、小学生ですけれども、最後までやり遂げてうれしかったことがあるというふうに感じております。自己効能感といいますか、自分が役に立ってうれしい、成就してうれしい、そういうことが生きてきているのかなと思っております。

最後に、先ほど述べましたけれども、読み、書き、計算については、おおむね身についていると思われましても、4番目のアール、社会生活を営む上での基本的な必要な責任、リスボンスピリティーの部分でやや課題が残るのかなと思っております。

これらの結果を全国と比べましてすぐれている事項については、今後も継続して伸ばしていきたいと思っております。課題である部分については、いろいろな機会をとらえまして、学力向上プロジェクトを中心に検討を行いながら、今後の学力向上のあり方について具体的に協議していきたいと思っております。

最後になりますけれども、本調査による測定できる学力は、特定の一部であるということ、また松戸市の学力に関する実態把握のための一つの資料としてとらえております。これらの調査については、経年的に行い、基礎データをしっかりととらえまして、本市のPDCAサイクルを構築していきたいと考えております。知識とか活用とか意欲とか、これらの3つの柱で、今後、学力向上を図っていきたいというふうに考えております。

この後、各担当から資料について説明させていただきたいと思います。

委員長 ありがとうございます。

では、継続してお願いします。

指導課指導主事 それでは、国語について報告させていただきます。

2ページ目になります。よろしくをお願いします。

まず、小学校の国語の概要についてお話しします。

国語A（知識）については、おおむね良好であると考えます。

国語B（活用）については、知識技能を活用する力に課題があります。

次に、内容ごとの課題等についてお話しします。

話すこと・聞くことの内容では、話の要点を聞き取り、効率よくメモをとることに課題があります。

書くこと、読むことの内容では、目的や様式に応じて必要な事柄を選んで表現様式に即して文章を書きかえることはよくできています。

次に、言語事項では、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を正しく読むことや、接続語の使い方、指示語が示す内容について理解し、よくできています。また、

調べたい事柄について辞書を効率よく利用することもよくできています。

次に、無答率ですが、無答率は全国と同程度の状況にあります。

これらを踏まえまして、指導改善のポイントについてお話しします。

まず、話すこと・聞くことでは、聞き手の反応を見て調整しながら話したり、話の要点をメモをとりながら聞いたりするなど、具体的な言語活動を取り入れ、話すこと・聞くことに関する知識技能を定着させる指導の充実を図っていく必要があります。

書くことでは、文章を要約したり、字数や様式などの与えられた条件に即して書きかえたりする言語活動を多く取り入れ、指導の充実を図っていく必要があります。

読むことでは、比べる、評価する、情報を取り出し活用する力などの読む力を育てる言語活動の充実を図っていく必要があるのではないかと考えます。

また、言語事項では、文の構成についての理解を図るために、2つの内容を1つの文にまとめたり、1つの文を内容ごとに分けて書いたりする言語活動の充実を図っていく必要があります。

次に、中学校の国語の概要についてお話しします。

中学校では、国語A（知識）について、おおむね良好であると考えられます。

国語B（活用）については、知識技能を活用する力を今後さらに身につける必要があるのではないかと考えます。

次に、内容ごとの課題等についてお話しします。

まず、話すこと・聞くことの内容では、聞き手を意識して使用する語句を工夫することや、不足している情報を適切な表現で話し手に確かめるということについてよくできています。

また、書くことの内容では、手紙の後づけについての理解に課題があります。

読むことでは、文章全体の内容や表現上の特徴をとらえ、大まかに読み取ることはよくできています。

次、書くこと、読むことの内容では、情報をもとに根拠を明らかにしながら、自分の考えが適切に伝わるように書くことに課題があります。

さらに、複数の資料を比較して読んだり、共通して書かれている情報を読み取ることに課題があります。

次に言語事項ですが、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことや、文の成分の照応に注意して書くことや、生活の場面での敬語を適切に使うことはよくできています。しかし、文脈の中で適切な漢字を書くことに課題があります。

これらを踏まえまして、中学校の指導改善のポイントとして、話すこと・聞くことでは、目的に沿って話したり、適切に聞き取ったりする力を身につけるために、具体的な場面を設定し、実践した言語活動を今後も継続していく必要があります。

書くことでは、手紙文の書き方など、基礎的、基本的なことを確実に習得させる指導の充実を図っていく必要があります。

また、場面に応じて資料を選択したり、根拠を明らかにしながら自分の考えを相手に適切に伝わるように書く言語活動の充実を図っていく必要があります。

また、読むことでは、社会生活に役立つ読む能力を身につけるために、さまざまな文章を読み取ったり、情報を活用したりしていく言語活動を工夫する必要があります。

また、言語事項では、日常生活で余り使用されていない漢字や間違いやすい漢字の正しい読み方や書き方について、指導の工夫を図っていく必要があります。

以上、国語について報告させていただきました。

委員長 ありがとうございます。

続いてお願いします。

指導課指導主事 指導課の蓮見と申します。よろしくお願いします。

では、算数・数学について報告させていただきます。

まず、小学校の算数A（知識）については、おおむね良好であると考えます。

算数B（活用）につきましては、知識技能を活用する力に課題があります。

数と計算に関する内容につきましては、四則計算はおおむね良好な結果が得られました。また、数量関係に関する内容につきましては、表にまとめることや、表から変化の規則性を読み取ることに課題があります。

また、無答状況は、全国と比べ同程度であります。理由を説明する記述式の問題については、よく答えていました。

数量関係の表にまとめることや、表から変化の規則性を読み取ることに課題がありますので、指導改善のポイントとしまして、伴って変わる数量について、その変化の様子を読み取る活動を低学年から意識して取り入れるなど、さまざまな場面で関数の考えを用いる活動を重視する必要があるというふうに考えました。

続いて、中学校数学について報告させていただきます。

数学A（知識）については、基礎的、基本的な知識技能をさらに身につけさせる必要があると考えます。

数学B（活用）につきましては、知識技能を活用する力に課題があります。

数と式に関する内容につきましては、小学校同様に、四則計算はおおむね良好な結果が得られました。

図形に関する内容につきましては、特に空間図形に関する理解力に課題があります。また、数量関係にかかわる内容につきましては、グラフから式を求めることやグラフを利用して問題を解決することに課題があります。

無答状況につきましては、全国と比べ、特にB問題の数学的な表現を用いて説明する問題に課題がありました。

指導改善のポイントですが、まず空間図形に関する理解力に欠けますので、模型に触れ、さまざまな角度や視点から観察する活動などを通して、空間における理解力を高める必要があるのではないかというふうに考えます。

また、数量関係のグラフから式を求めることや、グラフを利用して問題を解決することに課題があるという現状がありますので、具体的な事象の中にある数量の関係を表やグラフにあらわしたり、読んだりする活動などを通して、表、式、グラフによる表現を相互に関連づけた理解を深める指導を重視する必要があるというふうに考えます。

また、中学校では、無答状況が小学校に比べ高い現状がありますので、学習活動の中で自分で書く活動を取り入れる必要があるというふうに考えます。

以上、報告終了させていただきます。

委員長 ありがとうございます。

指導課指導主事 指導課の金子でございます。よろしくお願いいたします。

お手元の資料の最後のところの3枚目なんですけれども、生活環境や学習環境に関する調査についての調査結果についてご報告させていただきます。

委員長 ページでいうと何ページになりますか。

指導課指導主事 3枚目の 番、 番になります。

まず、この調査なんですけれども、これは児童生徒の学習意欲、それから学習方法、学習環境、生活の諸側面などに関する調査になっております。その中でわかったこと、それから課題を説明させていただきます。

本市の児童生徒は、早起きである。6時前後に起きるという子が多いということがわかりました。また、読書の時間、それから国語、算数・数学が好き、それから大切か、またはよくわかるか、将来役に立つと思うかというような学習意欲に関する質問に対しましては、ほ

ば全国と同じ傾向が見られました。

その中で小学校の特徴としましては、相当数の児童が生活の中等で「最後までやり遂げてうれしかったことがある」というふうに感じている生徒が相当数いる。

中学校の特徴としましては、全国に比べて、授業時間以外にふだん1.3時間以上毎日運動、またはスポーツをしているという生徒が多いということがわかりました。

小学校・中学校共通して本市の課題としましては、全国と比べ学習の事前準備、それから宿題等を忘れる児童生徒が多いということと、全国と比べて中学生の方は自然体験等の体験活動が少し乏しいと。また、規範意識に関する課題があるということがわかりました。

これらの質問種の内容を調査項目別に分類しまして平均した数字等を比較した結果、中学生の中では、やはり生活面に関する課題が多く確認ができました。

以上のような結果を受けまして、改善のポイントは、相当数の小学生が「最後までやり遂げてうれしかったことがある」というふうに感じておりますので、今後は、やればできる、できるからおもしろい、おもしろいからやるというような自己効能感を高めるサイクルを構築するために、学校、保護者、地域等が一体となった教育が求められるのかなと。

2つ目に、社会的責任の醸成のために、地域の大人や社会とのかかわりを深める社会貢献活動を強化していく必要があるのかなと。

3つ目に、将来の目標や夢を具体的に描くことのできるキャリア教育を学校、地域、家庭などの三者により推進していく。

4つ目に、総合的な学習の時間について、新指導要領を見据え、カリキュラムの見直し等を図り、体験活動を充実させる。

以上のようなことを今後の改善のポイントとして考えております。

次に、教科に関する調査と生活習慣等に関する調査の関連、クロス集計と言うんですけども、それについて説明させていただきます。

委員長 15ページでよろしいですか。

指導課指導主事 はい。

概要をまとめますと、将来の夢、または目標を持っている、または学用品を確認して宿題をする。国語、算数・数学が好き、勉強は大切、将来役に立つと思うというような傾向の答えを示している生徒が正答率が高いということが確認できました。

詳細につきましては、やはり学習意欲的な項目、それから将来の目標というような目標、または目的意識を持って、学校生活や家庭生活を送っている児童生徒の国語、算数・数学の

正答率が高いということも確認できました。

このような結果を受けまして、やはり同じように今後の改善のポイントなんですけれども、学力の原動力としての意欲をはぐくむ教育課程の編成が重要ではないかなと。

2つ目に、学力と生活習慣の関連がこういった結果から確認できたので、学びを生かしてなりたい自分になる、要するに生きがいを追求する力を高めるために、学校、保護者、地域で一層強化をしていく。

3つ目に、規範意識という部分がありますので、ボランティア活動などの体験活動を重視して、心を耕す教育の推進が必要ではないかなと。

以上のようなところをポイントとして、今後、改善が必要ではないかなというふうに考えます。

以上であります。

委員長 ありがとうございました。

指導課長 以上でございます。

委員長 以上が全国学力・学習状況調査についての分析結果の報告です。これは最終報告ということですね。

指導課長 来週早々にはホームページに立ち上げたいと思っております。

委員長 調査結果報告の概要をご説明いただきました。どうもありがとうございました。

15ページのところでおっしゃった、指導改善のポイントはとても大事な指摘だと思います。学力の原動力は何かということ、意欲というふうに置かれたので、これはやる気があるかどうかということあるいは興味を持ってもらうという意味に理解しました。何かに向かって集中できる意欲があるということですね。それはとても重要なことだと思います。

1つのことにそういう関心や興味を持ってくれると、それがどんどんほかに応用できるということになるんだろうと思いますから、そのようなことを感じ取ってもらいたい。それをどこから導き出すか、いざなうかというのは難しいと思いますが、それぞれの先生の生き方を伝えるということも一つの手でしょうし、あるいはまさにコミュニティ全体で、何かを探っていくということも必要でしょうし、いい大人の姿をたくさん見せるということも必要でしょうね。我々もそこは重々注意していきたいと思っています。

いただいた資料を今後じっくりごらんいただくということにして、ご報告いただいたことにさせていただきます。

教育長、どうぞ。

教育長 調査結果の概要、公表も含めてですけれども、時間との兼ね合いがあるので、とりあえずこれで公表するという事は結構なんですけど、さらに詳細に分析し、クロス集計なども実施した上で詳細に分析して、具体的に学校が、教師が、どのように取り組めばいいかというところまで、やはりある程度提示しなければいけないんだろうと思います。それは各学校ごとにおやりになると思いますけれども、それをお願いしたいというふうに思います。

調査結果の分析概要、結果の考察等、端的にポイントを突いてまとめられているのは評価いたしますけれども、少し抽象的過ぎるので、具体的にどうやって、それこそPDCAじゃないですけれども、いつどのように計画を立てて、どのように実行して、その成果をどこへ求めるかという、それが見えない、ちょっと抽象的過ぎて、きれい過ぎる、うま過ぎる、まとめが、その辺をお願いしたいというふうに思います。

スタッフ派遣等々でさらに充実させるとか、校長の裁量権を拡大したスタッフ派遣等の活用に4アールズの定着、確実な定着を目指すとか、9年間を見通した教育課程の研究とか、みんなすばらしいけれども、それは特に今回の学力調査結果を踏まえなくても当然やるべきこと。今回踏まえた課題を解決するには、もう一步踏み込んで具体的にこうすることが望ましいというような、そういう視点で分析してほしいなというふうに思います。

これは毎年やりますよね、学力調査は。

指導課長 はい。

教育長 そうしますと、来年は間に合わないにしても、再来年、その次の年に点数を高くすることだけが目的じゃないですけれども、課題がどのくらい解決できたというふうな成果を見る必要があるかと。そのためには授業の改善、指導方法の改善、そして学校だけでなく、家庭における児童の学習生活上の課題、問題等も指摘せざるを得ない。そして、毎年度レベルダウンしないように、あるいはもう少し上をねらう、そういうことが必要なのかなというふうに思います。

国は既にOECDやPIISAの学力評価で、大分日本は下がった下がったと新聞にたたかれています。新しい学習指導要領を前倒しでもしていくという方針を出しておりますけれども、松戸市は以前からそういうことに着目していたわけで、国の指導要領が前倒しになるにしても、まだ3年くらいあるんですよ。それじゃ間に合わないという部分もある。この学力調査を全国との比較で相対評価するのも結構ですけれども、やはり相対評価だけでなく、絶対評価をして、松戸市流の学力向上定着対策を打つ必要があるんじゃないかと。

国はOECDでたたかれたけれども、人口1億を超える国で、今回の全国一斉調査に見ら

れるように、かなり基礎、基本ができていう国家はほかにはないだろうなんて、国の分析機関だから、少し割り引かないといけないかもしれない。要するに自画自賛はしてあります。確かにそうだと思います。基礎、基本は結構定着している、松戸市でも。ただ、応用問題等、読解力に代表されるような応用問題等が弱い。日本国中の問題ではあるけれども、松戸市も同様の結果が出ているということから、その辺に対する手だても考えなければいけない。いろいろな課題があり過ぎて大変だろうとは思いますが、ぜひお願いしたいというふうに思います。これはあくまでも全体的な評価としては評価します。

ちょっと長々しく申しわけありません。以上です。

委員長 ありがとうございます。

おっしゃるとおりですね。一つ一つ、一步一步前進し積み重ねていくということが必要だろうと思いますね。

このご報告はこれまでにしますが、関連しますので少し報告させていただきますと、11月30日に委員全員で新潟県の聖籠中学校を視察してきました。この場をかりて、聖籠中学校の市島校長先生、それから坂口教育長にお礼申し上げたいと思います。非常によく説明していただきました。

聖籠中学校の教育改革の骨子は、事前に本を読んで行ったんですが、本で読んだ限りでは見えないところがたくさんありました。それが、実際に見たあとでは、書いてあることがよくわかりました。読むと見るとでは全然違うんですが、その一つは、社会の変化にあって、エリアのコミュニティが薄れてきている。それならば、地域のコミュニティを再生できないかということを中心に大きなテーマとして、その課題解決の大きな柱を、学校と地域の融合に据えたわけですね。それで、学校の校舎そのものをコミュニティに見立てた。つまり学校が町なんですね。その中で子供たちが勉強している。そこに地域の人たちが集まってくると。そういう建物と教育内容、ソフトとハード両方とも根本から変えるという教育改革なんですね。これには非常に驚きました。

見た限りでは、子供たちがいきいきしているなという印象を受けました。これがしょぼくれているのでは、改革も何もありませんが、子供たちが実に伸び伸びしているという印象を受けました。

現地で入手した資料は、事務局にお渡ししますが、その中に、今報告いただいたことに関連する言葉として、学校の建学の精神は、日本一いきいきした中学校だということです。これが建学の精神です。日本一いきいきした中学校。キーワードは、自立、共生、創造だと。

この本のタイトルも、「学校という“まち”が創る学び」なんですね。これはタイトルではわからなかった。ところが、行ったら、まさにそれが見えました。

そのために学校はどんなことに努力目標を置くかということ、第一に基礎、基本の定着、学力の向上にあることはもちろんです。

2番目に、さっきおっしゃったことに関連するんですが、これは目当てづくり、目標づくり、計画実践、振り返りのサイクルの中に適切にそれを支援していこうとあります。聞く、話す、話し合う活動を組織するというようなことを通じて、子供たちに生きる力、人とのかわりを学ぶという、そういう感覚を身につけさせたい。

そうすると、さっきまとめのところでおっしゃっていただいたこととも非常に関連すると思うんですね。意欲をどうやってはぐくむか。一人では無理でしょうけれども、そういうコミュニティの中で、人とのかわりの中から自分が何をしたい、こういう目標を持つ、将来何になりたい、夢を持つ。そんな何かが発見できれば、すごくいい教育改革になるのかなということを感じましたので、この場をかりて、我々が視察してきたことの一部をご報告させていただきます。

教育長、何か補足していただけますか。

教育長 つけ加えさせていただきます。

教育の中身については、今、委員長がおっしゃったとおり。

実は統廃合校なんですね、この聖籠中学校。人口1万五、六千人の小さな町で、中学校は2つあったんですけども、2つを統合して1カ所に新しく建て直したと、そういう学校です。土地が広いですから、6万平方メートル、松戸市の中学校の平均の3倍の広い敷地の中に、平屋と2階建てのみのしょうやかな建物で、これもまた松戸市の中学校に比べると、建築面積というのは2倍はあると。余りにも廊下が広いので、私は、学校がそもそもコミュニティに見立てていると委員長がおっしゃっておいりましたけれども、それは知らずに、いきなり短距離競走ができそうな広さと長さのある廊下を見まして、校長先生に「角々に信号機を置いたらどうですか」と冗談を言ったんですけども、「それも検討しているんです」と。なるほど、学校が町なんだというふうに思いました。

統合するのに、実は40年かかっているんです。統廃合宣言をしてから。昭和30年に村と村が合併して町になるときに、学校は統合して一つにしますということを条件というか、宣言して出発したんですけども、やはり漁村と農村の文化、ソフトの違いから、なかなか旧両村の民の融合、コミュニケーションが図れないまま、ずるずると30年ぐらいを経過してしまっ

た。

そして、今3期目の町長さんが当選されたそうです。その公約を実現するために奔走されて、6万平米という物すごい土地に物すごい学校を建てたと。町の一般会計予算の7割ぐらいかけたんですね。75億円から80億円ぐらいしかない町の予算で、その新聖籠中をつくるために58億円かけた。松戸市で言うと、800億円ぐらい1校にかけたという計算になります。大きい都市では決してできる話ではございません。いろいろな国の援助とか、あるいは原発なんかも近くにあるんですかね。そういう関係で、いろいろな補助金があるからできたことなんでしょうけれども、それはさておきまして、すごい学校ですねとほめました。生徒もいきいきとしています。元気です。教育長さんまで来ていたんです。「統合前は、いじめ、不登校、学級崩壊、校内暴力、何でもありでした。これじゃいかんというのが、一つやはり本格的に統合していい学校をつくらなければいけないという動議づけにはなっています」とおっしゃっています。それで、両村の漁村と農村の人たちも、こんなことなら早く統合してもらえばよかった、こういうふうに言っています。これは私、ひいき目に言っているわけでも何でもありません。客観的にお伝えしているんです。彼らがおっしゃっていた話。

それはどういうことかと言いますと、漁村に農村の子弟が遊びに来た。漁村と農村や町場の子供たちが一緒に遊んでいる。それにびっくりした。こんなことは、じいちゃん、ばあちゃんの時代にもなかった。それは当たり前の話でして、農村であろうと、漁村の子弟であろうと、学校は一緒ですから、当然同じクラスになる、同学年になる。勉強やら、遊びやら、運動やらするわけですから、今週の土曜日、遊びに来いよと、じゃ行こうかといって行って遊ぶ。海はおもしろいなど。あるいは大根の生えているところ見たことあるかと、それはないかもしれないけれども、栗の実のなっているところを見たことがあるかとかいって、じゃうちに遊びに来いよと、農村、山村の子供たちのところに遊びに行く。そうすると、それに揺すられて、親同士も話し合いをする、コミュニティを醸成するようになる。結果、聖籠中のコミュニティルームというのが開放されてあります。そこに保護者が毎日当番で詰めている、コミュニティ形成のために。農村と山の民と海の民がペアで、そのコミュニティルームの当番になることもあるというようなことで、急速に町自体のコーポレートアイデンティティとでも言うんですか、それが高まりつつあるというのが教育長さんのお話でして、町長も3期目で、1期目は僅差、2期目は中差、3期目は無投票になってしまった。

聖籠中版のパイロットスクールがそうだったとは言いませんけれども、それをシンボルとして、町全体をまとめ上げていこうという求心力にはなっている。したがって、今回、平成

の大合併でも、大県都新潟市もけっ飛ばし、隣の新発田市からの誘いもけっ飛ばし、独立を守ってしまったと。いいか悪いかわかりません。そういう学校でございます。

以上、報告を終わります。

委員長 ありがとうございます。

我々教育委員5名もそういういろんな形で勉強させていただき、そこで学んだことを皆さんになるべく知っていただいて、それで松戸市の教育改革にやはり何か役立ててほしいなと思っている次第です。

ほかに何か報告事項ございますか。特にありませんか。

企画管理室長 企画管理室の方からですけれども、次回、新年に入りましてからの会議の日程の関係でございますけれども、1月10日木曜日、時間は2時ということでいかがでしょうかということなんですが、よろしいでしょうか。

委員長 次回の教育委員会会議の日程についてですが、今、事務局から1月10日木曜日午後2時からということでご提案ありました。

よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

委員長 それでは、確認いたします。

次回教育委員会会議は、1月10日木曜日午後2時から教育委員会5階会議室にて開催いたします。

これでよろしゅうございますか。ほかには。

閉 会

委員長 以上をもちまして、平成19年12月定例教育委員会会議を閉会いたします。

ありがとうございました。

閉会 午後 3時10分

この会議録の記載が真正であることを認め署名する。

松戸市教育委員会委員長

松戸市教育委員会委員